

キリスト騎士団

テンプル騎士団は消滅後、数年足らずで姿を変えて復活。ポルトガルを中心に「キリスト騎士団」という結社が生まれ、新法王の命令でテンプル騎士団の財産の一部が、この新騎士団に与えられたのである。

この「キリスト騎士団」はその膨大な財産で巨船を作り、広大な海洋へと乗り出していった。総長には航海王エンリケが就任。彼はサグレブ岬に研究所を作り、航海術や天文学の研究を進め、多くの航海者を養成し、西アフリカ海岸探検・東インド航路探検に彼らを次々と派遣。喜望峰迂回海路を開く基礎をすえた。百年後のヴァスコ・ダ・ガマも高級幹部だった。

かつてのテンプル騎士団たちは航海者になったのである。



サンタマリア号の帆には
ゆかりの赤い十字がついていた

クリストファー・コロンブスも、キリスト騎士団の娘と結婚したおかげで、義父から地図と海図を手に入れることができた。だからこそ、1492年10月12日に新大陸へ上陸した時、コロンブスの3隻の帆船、ニーニャ号、ピンタ号、サンタマリア号の帆には、テンプル騎士団の紋章を受け継いだキリスト騎士団の赤い十字が描かれていたのである。

1544年、ポルトガル十字をはためかせた船で鹿児島に上陸したザビエルを後援したのもキリスト騎士団であった。当時のポルトガルはキリスト騎士団の本拠地であり、この国の探検費用は全て、キリスト騎士団の財産でまかなわれていたのである。

(「[ヘブライの館2](#)」)